

1 取組の目的

研究主題を「自他の命を守るために主体的に学び、行動する力を育てる防災教育」として、児童・生徒は、防災教育や小・中学校合同避難訓練を通じて、防災を自分のこととして捉え、まず、自分自身が生きぬくこと、そして周りの人を助けることの大事さを学ぶ。また、保護者、地域、関係諸機関と連携しながら、より実践的な取組により、学校・地域防災の普及を目指す。

2 取組の内容

7月28日 楽しみながらできる防災訓練

豊岡小学校・三島南中学校の児童・生徒や保護者の方々、地域の方々を対象に、豊岡町ふるさとづくり実行委員会「地区コミュニティ」主催による「楽しみながらできる防災訓練」が実施された。

まず、豊岡小学校体育館で、県警機動隊の方による災害講習、宇摩教育用品の方による非常持ち出し袋講習が行われた。ここでは非常災害時に使用する救助器具の説明のあと、実際に触ってみたり、体験したりする時間が設けられた。

非常持ち出し袋に入れておいたらよいものについて、実物を見せながら、詳しい説明があった。こちらの物資についても、実際に持ったり触れたりすることができ、大変分かりやすかった。

その後、運動場に出て、育豊会のお父さんたちに教えていただきながら、パン作りにも挑戦し、やまじ会・虹クラブの方々が作ってくださったおいしいカレーとともに夕食として食べた。

夕食の後は、再び体育館に入り、長田自主防災会の方々による「防災の勉強」があり、映像を見たり、クイズに答えたりしながら地震や津波のことなどについて学習した。また、「ロープワーク」も教わり、いざという時ほどけないロープの結び方を体験することができた。



【テント式簡易トイレを見する児童】



【非常持ち出し袋講習】

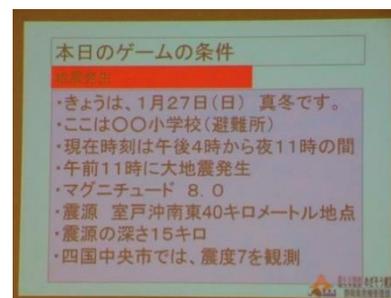
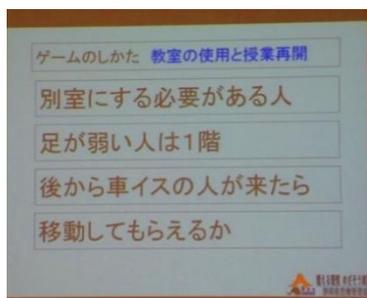


【長田自主防災会の方による防災学習会】

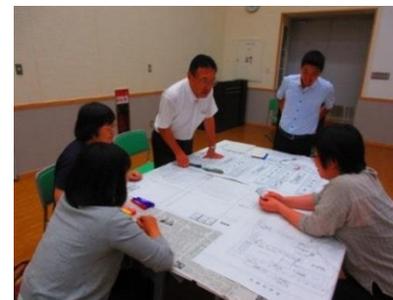
その後、子どもたちは、消防団豊岡分団の方々に見守っていただきながら、花火を楽しみ、最後は、育豊会のお父さんたちが用意してくださったドラム缶風呂を体験した。予定されていた体育館での宿泊体験は、台風12号の接近により残念ながら中止となったが、この活動は、防災に対する意識向上や、災害発生時への備えにつながる貴重な体験となった。

8月10日 小中合同職員研修

三島南中校区小・中合同研修会を四国中央市防災センターで開催し、「避難所運営ゲーム（HUG）」の研修を行った。



参加教職員のほとんどが初めての経験で、四国中央市危機管理課の職員よりHUGの進め方の説明を受け研修がスタートした。



次々に読み上げられる避難者情報に、的確な判断の難しさを実感する教職員



ゲーム後の振り返りでは、「旅行中の避難者を教室に配置したが適切であったのか」など、各グループが判断に迷った情報を共有することができた。

8月27日～28日 先進地視察研修

熊本地震の被害状況と現在の復興状況等を聞き取り調査し、今後の本市における防災教育推進に生かすことを目的に、市教委防災担当者1名と小学校、中学校の中核教員（教務主任）2名で先進地視察研修を行った。

2日間とも、熊本市教育委員会の全面協力により、熊本市内の現状の視察や市内で特に被害の大きかった中学校、大型避難所として運営された小学校各1校を訪問させていただき、当時の様子や避難所運営等での課題等を聞き取り調査した。また、熊本市教育委員会では、熊本地震後の教育委員会が中心として行っている防災教育の見直しや、現在の取組状況について話を聞くことができた。

先進地視察を終えて一番印象深かった言葉は、「想定内は想定外」である。熊本市で聞き取りした小、中学校や委員会では、しきりにこのような内容の発言が出てきた。これは、災害に備えて日頃から取組を積み重ねていくことが大事であるが、万が一の大規模災害が発生した際は、想定外のことが多いため、とっさの判断力や柔軟な対応、また多方面からの協力、連携が大事であるということであろう。今後も、今回の先進地視察で学んだことを、いろいろな機会を捉えて広げていくことが大切であると再確認した視察研修であった。



【プレハブ校舎】



【新校舎建築工事】

9月22日 学校保健委員会（豊岡小学校）

「いざというときに自分ができること」というテーマで、学校保健委員会を行った。ねらいを、「いざというとき、自分や周りの人の命を守るために、どんなことができるかを知る」「身の回りにあるもので、どんな応急手当ができるかを知り、自分の身を守れるようになる」と、設定した。

まず、保健・給食委員会の児童が、身の回りの物を使ってできる、けがの応急手当を紹介した。止血や骨折の際の固定の方法など、災害時に必要になると思われるものを取り上げた。児童は、関心をもって発表を見ていた。

次に、縦割り班での活動を行った。保健・給食委員会の発表を基に、各班の代表者が、骨折の固定を体験した。その後、体験して感じたことや見ていて思ったこと、これまでの学習を振り返って考えたことについて話し合った。その後、各班で話し合ったことを全体で伝え合い、共有した。また、参加して下さっていた近隣校の先生方や地域の方からも、意見や感想をいただき、児童は、改めて自助・共助の大切さについて考えることができた。

最後に、愛媛大学防災情報研究センター副センター長の二神透先生に、「四国中央市で起こりうる災害への備え」というテーマで講演をしていただいた。過去に起こった災害について写真を見せながらの解説があった。また、四国中央市のハザードマップや指定避難所の情報、災害が起こったときの被害についても説明があった。特に、児童は震度7の地震が起こったときの実験映像から、地震の恐ろしさを実感し、保護者とともに防災意識を高めることができるとてもよい学びになった。

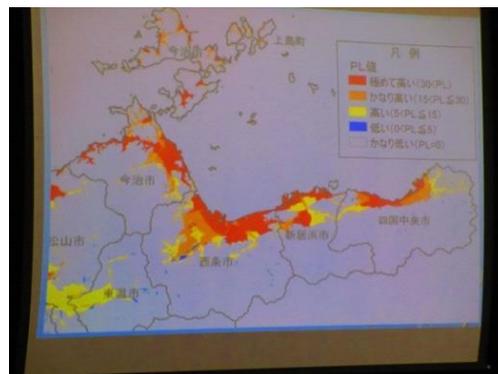


11月14日 防災教育講演会（三島南中学校）

愛媛大学防災情報研究センター副センター長の二神透准教授をお招きし、「四国中央市で起こりうる災害への備え」という演題で全校生徒・保護者を対象に講演をしていただいた。最初に中越地震での事故・災害状況を紹介していただき、次に私たちの身近に起こる可能性の高い南海トラフ大地震について話をいただいた。愛媛県や四国中央市の予想震度や建物倒壊死亡リスク、土砂災

害死亡リスクなどを示した図をもとに、詳しく具体的に説明していただいた。建物倒壊死亡リスクが第6位であったり、地震火災死亡リスク第3位であったりなど、愛媛県内でも被害リスクが多い街であることを知り、参加者全員が更に危機感が募る内容だった。また、早めの避難の必要性や家族会議の大切さなど、災害に向けての備えがどれだけ大事か生徒に分かりやすく説明もしていただいた。

講演後の生徒からの質問では、自分たちが住んでいる町の立地条件に合わせた地震や津波、土砂災害など身近な質問に対し、住んでいる町の特徴や身の守り方、避難の仕方等を丁寧にお答えいただき有意義な情報交換を行うことができた。



11月16日 地震火災シミュレーション体験授業（豊岡小学校）

4年生では、愛媛大学防災情報研究センター副センター長の二神透准教授や大学院生にご協力いただき、地震火災シミュレータを使った授業を行った。

まず、四国中央市の被害の予想を詳しく教わった。地図を使って予想される震度や、被害を受けると予想される人数を知ることによって、児童は自分たちの地域に起こるかもしれない被害を身近に感じることができた。阪神淡路大震災が発生したときのコンビニエンスストアの様子を映像で見た時には、児童から悲鳴が上がり、実際の揺れの様子や被害の様子などを実感をもって理解することができたようだった。

その後、いくつかのグループに分かれ、大学院生が地震火災シミュレータを操作して、児童の家の付近で起こると考えられる地震火災を疑似体験した。4年生が、自分で地図から自分の家を探し出したり、風速や風向を設定したりするのは難しいが、大学院生が操作してくれることでスムーズに学習が進んだ。授業の終わりには、家でも家族とシミュレーションができるように操作ガイドをいただいた。



11月16日 小・中学校合同避難訓練

三島南中学校区の小・中学校が協力して、合同の避難訓練を実施した。児童が子どもだけで自宅にいる時、高知県沖を震源とする震度7の地震が発生したという想定で行った。午後2時の放送を合図に訓練を開始した。まずは、各家庭でテーブルの下に隠れるなどして揺れから身を守る行動をとった。その後、必要な荷物を持ち、各自がそれぞれの地域の集団登校場所に集合した。全員が集合すると、中学生をリーダーに近くの避難場所（豊岡小学校または三島南中学校）に向けて出発した。避難は、SSV（スクール・サポート・ボランティア）として参加していただいた保護者や地域の方に見守られながら行われた。学校（避難場所）に到着後は、教師の指示に従って体育館に避難してきた班ごとに整列した。各班の担当教師は、人員点呼を行い校長へ報告を行った。全員が避難を完了するまでに、地震発生から30分程度の時間であった。その間、子どもたちは、黙って真剣に取り組んでいた。その後、市の消防本部危機管理課の方から、地震の時危険になる場所や安全な場所について教えていただいた。最後に、教えていただいたことを基に、避難してきた通学路を引き返しながら、危険な場所や安全な場所を確かめるための「防災フィールドワーク」を行った。子どもたちは、SSVにアドバイスをいただきながら、「マイマップ（防災マップ）」に危険箇所などを書き込んでいった。この避難訓練により、子どもも教師もいざという時の状況を少しイメージすることができたのではないかと思います。今後もこのような訓練を大切にしていきたい。また、後日、地区児童会で「マイマップ」を持ち寄り、訓練の際のフィールドワークで分かったことを地区ごとに大きな一つのマップにまとめていく作業を行った。この活動を通して、一人一人が改めて地震の時、どこが危険でどこが安全であるかを確認することができた。



【中学生をリーダーに避難】



【フィールドワーク】



【地区児童会でのマップ作製】

1 2 月 5 日 中核教員を対象とした防災教育研修会

今回の研究事業目標の一つに、「拠点校に中核となる教員を位置付け、研究・検討を重ねることで、より効果的な防災教育の方法を構築し、成果を市内拠点校以外の学校に普及させる」ということがあげられている。そこで、今年度夏季休業中に行った、小・中合同職員研修で実施した避難所運営ゲーム（HUG）の実施と、8月の熊本県での先進地視察研修の内容を報告する研修会を1 2 月 5 日に実施した。市内からは各校の中核教員（教務主任、学校防災主任、学校安全主任等）1 名以上を参加者とし、四国中央市消防防災センターを会場に行った。

研修は、まず、避難所運営ゲーム（HUG）を実施した。拠点校教員がファシリテーター役となり、避難所運営ゲームの概要とゲーム説明を行い、30分間という時間制限で実施した。参加者は、読み上げ係がどんどん読み上げるカードを、同じ班の参加者と体育館配置図や敷地内配置図に置いたり、イベントカードの情報を掲示板用の用紙に記入したりしながら、次々とやって来る避難者に対応する難しさを体感することができた。

次に、各班でゲームの振り返りを行った後、先進地視察研修の報告を行った。ここでは、拠点校での校内研修で使用したプレゼンテーションを使用して説明した。

1 月 2 5 日 成果発表会

豊岡小学校では、地域の防災にも努めた郷土の偉人、今城宇兵衛さんについての学習をきっかけに、各学年が1年間防災について学んできたことを全校で紹介し合う全校集会を公開した。

三島南中学校の授業では、1年生が「災害の経験から未来へ」の映像から、2年生が「クロスロードゲーム」、3年生が「ダイレクトロード」のゲームを通して、災害時の対応について考える授業を公開した。

また、全体会では、豊岡小学校・三島南中学校のこれまでの取組についてパ



【避難所運営ゲームの様子】



【先進地視察研修報告の様子】

ワーポイントを使い発表した。その後、公開授業・発表について研究協議を行い、二神透先生から御指導・御助言をいただき、最後に高橋治郎先生から御講演をいただいた。



3 取組の成果

- 児童・生徒はもとより、PTA、地域、自主防災会や愛媛大学防災情報研究センター等、関係機関と連携した取組により防災に関する意識が向上した。
- 小学校では、「今城宇兵衛さんの精神」を学年の発達段階に応じて年間を通じて意識付けて行い、中学校では防災教育の視点を明確にして取り組んだことで防災教育を推進することができた。
- 拠点校教員による市内中核教員対象の防災教育研修会を実施し、拠点校の研究内容を伝達することができた。
- 小・中合同避難訓練では、防災マップを作成するために家族と話し合ったり、学習内容を児童・生徒から家庭に伝えるなど、家庭と連携した活動を実施したことで、家庭における防災意識の向上にもつながった。

4 今後の課題

- 今年度のような猛暑による高温や天候の諸事情による計画変更の可能性はある。
- 土砂災害の新たな危険箇所にも両校とも含まれ、土砂災害時の避難場所が確定できない。
- 児童・生徒が我がこととして自助・共助の精神を育むには、今回の取組を基に、更に実態に合った教育活動となるよう、年間指導計画の見直しや、学習内容の改善が必要である。
- 今回の取組で培った各関係機関や三島南中学校区3校との更なる連携体制の維持と取組の改善が必要である。

- 児童・生徒が地域の防災の担い手として活動できる力が身に付くよう、自助・共助が家庭へも広がるような連携を作り上げる。